



いわき ようへい
2年 | 岩木 陽平 さん [熊本県立熊本高等学校 出身]

■ 高校生活の成果をAOで輝かせたい!

ボーイスカウトや子ども会活動で自然と触れ合う機会が多かった僕。「これからは農学」という母の勧めもあり、鳥大農学部に興味を持ちました。乾燥地など魅力ある研究をやっているうえ、AO入試もある。僕は美術部・演劇部・ボランティアと3つの活動を頑張ってきたので、「この経験を生かすならAOだ」と考えていたんです。でも、その道は険しかった。志望理由を書けば「何が言いたいのか分からない」と厳しい添削、自己PRでは自分の魅力が分からず筆が止まる始末。箇条書きで頭を整理してみたり、自分自身について両親や先生と話し合うなどしてなんとか書き上げたものの、願書が完成したのは提出締め切りの前日でした。

■ 面接シミュレーションでスランプを克服

願書提出後すぐに1次面接の練習開始。ところが、なぜか先生の質問に何も答えられないんです。そこでまずは自分1人で特訓。録音した質問事項を再生しながら、鏡の前で答える方法で、なんとか面接スランプを脱出しました。1次選考は福岡会場で受験。本番ではスラスラ話すことができ、帰り道に思わずガッツポーズ(笑)。初めて1人で鳥取に出かけた2次選考の初日は、あろうことか寝坊! 慌ててホテルからタクシーを飛ばし、農学部の前に横付け。順番が後のほうだったのでなんとか間に合ったけど、冷や汗ものでした。ディスカッションでは協調性を大切に。「いい議論をして“全員合格”を目指そう」という気持ちでやるといいと思います。

■ AO入試で求める人物像

募集人員(予定): 10人

【趣旨】太陽と水と土に根ざす農学を自ら主体的に学び、幅広い視野と創造性をもって社会へ貢献できる人材の育成を目的としています。このため、従来の学力試験による選抜方法と異なり、能力、適性、意欲、関心などを多面的に総合評価するAO入試を実施します。

いのちを育み環境を守る意志が強く、自ら積極的に学ぶ姿勢・チャレンジ精神・リーダーシップを有し、かつ次のいずれかに該当する人を求めます。

- 食料生産、自然環境修復あるいは生物資源の利用に関する研究・技術の開発普及に貢献することを志す人
- アグリビジネスあるいは環境関連産業において起業家を志す人
- 農学に関する知識・経験・実践力をもとに地域・国際貢献を志す人



野菜に魚介、鳥取グルメに舌鼓

熊本出身の僕には鳥取の食材が珍しくてたまりません。地元には流通していない砂丘ながいも・白ねぎにビックリ。松葉ガニ、ハタハタ、モサエビといった魚介類も必食の美味しさです。

平成26年度AO入試第2次選考<選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成26年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。

平成27年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

なお、農学部生物資源環境学科における、AO入試の閲覧物はありません。

全体を通して求める力

生物資源環境学科では、自ら意欲的に学び、学んだことを実践に応用できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

課題論文

「これまであなたは何をどのように主体的に学んできましたか。その内容や工夫について述べて下さい。また、それをどのように“自分の農学の学習”に生かすのか」を、具体的に1000字程度で記述するものでした。第1次選考合格者に、課題論文のテーマを与えて事前に記入し、第2次選考当日に持参しました。

グループディスカッション

1グループ6名で、「高齢者の多い集落の住民として、6名の学生が共同生活することになりました。1つ屋根の下で1年間グループとして何をしますか?また、そのための各自の役割を決めて下さい。」をテーマとした、90分のグループディスカッションを行いました。なお、進行については、司会を含む役割分担を受験生が決めて行いました。

個人面接

3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。また、基礎的な英語についても試問しました。